支援プログラム

作成日　２０２５年2月1日

事業所名：放課後デイサービス　くるみ

営業時間：９：００～１７：３０

（サービス提供時間）
放課後　１６：００～１７：００
長期休暇１０：００～１７：００

送迎実施の有無：有

法人理念

社会福祉法人とんとんは障がいのある子もない子も地域で暮している子も利用することができ、子育てに頑張っている誰もが素敵な笑顔にあふれ、ホッとできる広場であり続ける。

支援方針

・楽しく安心できる環境の中で、活動を通じて決まりやルールを声掛けし、励ましたり褒めたり共感したりしながら、次第に気持ちに折り合いをつける事ができるようになり、社会性や対人関係の発達の土台を築いていきます
・屋内外で多様な遊びを行う中で子どもの心身の発達を促し、子どもが好きな遊び、楽しめる活動を思案し様々な体験ができるように活動を構成します
・子どもの意見を聴きながら子ども達が好きな特別の活動（クッキング、買い物体験）を設定したり、子どもがやりたいことを述べられるように発表の機会を作るなどして、子ども主体の場を提供し自己選択や自己決定を促していきます。子ども同士の関わりの中で子ども達が主体性を発揮し、自然体で参加できるように支援を行っていきます。
・家族（きょうだいや祖父母を含む）からの相談に応じ、家族の不安や困りごとに寄り添います。

家族支援

・家族への定期的な聞き取りや日々の困りごとや相談を受け付けています。
・利用児だけではなく、兄弟児を含めた子育てのストレスや不安などの気持ちを受け止め、ご家族の精神部分のケアを心がけています。
・ペアレントプログラムを実施しています。

移行支援

・家族や学校と進級進学に必要な情報共有しながら、環境変化に対する支援を丁寧に行います。
・他機関と連携を図り、無理なく一人ひとりのペースに応じた移行ができるようにサポートします。

地域支援・地域連携

・関係する放課後デイサービスや児童発達支援事業所、SSW、子ども家庭支援センター、相談支援事業所と連携をとり、情報共有を行います。
・教育、医療、子育て支援、母子保健、障害福祉サービス事業所などお子様に関わる様々な分野の関係機関とのやり取りの中で、情報を共有しライフステージに応じた切れ目のない支援を行います。

職員の質の向上

・研修へ参加をして専門性を高めていきます。
・定期的な会議・事業所内研修を開催し実践的なスキルの向上を目指します。
・日々のミーティングにより情報や知識をチーム全体で共有することで職員自身の学びとなり、子どもたちの成長につなげていきます。
・年に2回の評価のなかで客観的に自分自身を見つめ直し、改善すべき点などを振り返りながら職員の成長を支援していきます。

本人支援の内容と5領域 【本人支援】

健康・生活

・来所時の健康状態の把握、支援中の観察を丁寧に行います。
・私物整理や持ち物管理などの生活習慣や健康の維持、学校休業日の決まった時間での誘導と支援により規則正しい生活リズムの形成など基本的な生活スキルの獲得を目指します。
・心身の成長の変化に合わせ、パーソナルスペースの確保や不安・葛藤などの感情に寄り添っていきます。

認知・行動

・針時計やタイマーを用いて日常生活での時間間隔の把握を行い、日にちや時間に関する認知の形成を行います。
・ブロック・パズル・ボール遊びなどを用いて空間把握に関する認知の形成を行います。
・こだわりなどの認知のゆがみを把握し、適宜丁寧な対応を行うことで切り替えることができたり、拒否感を軽減できるように支援します。
・制作やクッキングなど手順通りに作る経験や手指を使って一つの作品を作り上げる喜びや達成感を味わいます。

人間関係・社会性

・放課後デイサービスの職員や友達と関わりながら人との触れ合いを楽しみます。放課後デイサービスの職員と継続的に関わることにより、信頼関係を築きながら安心感を得ていきます。
・興味関心のある活動や遊びを通して他者との関わりをもち、他者と同じ体験を共有し一体感を味わいます。
・集団活動を通して、ルールや順番などの規律や、お友達への適切な声掛け、気持ちの切り替えやコントロールの仕方を身に付けます。

運動・感覚

・PT(理学療法士)による計画的な専門支援(全身の筋トレ・関節可動域訓練)の実施により、筋力アップや体幹強化、現状維持ができるように楽しみながら体を動かします。
・鉄棒、転がしドッチ、バランス、制作、段ボール遊び、背中文字あて遊び…などの様々な活動や遊びを通して、視覚・触覚・固有受容覚・前庭覚等の感覚を養い、自ら手指や体を楽しく動かす中で達成感を味わい一人ひとりの感覚統合を促していきます。
・屋上園庭やホール、公園などで全身運動を行ったり、学習時の姿勢保持など日々の様子の監察を行い、必要に応じて２～３人のグループ活動や個別支援を行います。

言語・コミュニケーション

・集団活動の中で言語を使った様々なゲーム(５W１Hゲーム、ビンゴ、マジカルバナナ…など)を用いて遊びの中で語彙を増やしていきます。
・週に１回テーマを設定して自分の事を話す機会を設け、相手に自分の想いや考えを伝える経験をしています。
・言語に限らず表情やしぐさ・ジェスチャーなど状況に応じたコミュニケーション手段を通して、自らの想いを発信できる環境を作ります。
・促音、半濁音の理解を深めるためにＳＴ(言語聴覚士)が個別に教材を用意して段階的に学習を行います。
・個人の発達段階に応じてＳＴ(言語聴覚士)による介入を行い、よりよい発達を促します